

エコアクション21

# 環境経営レポート

(2024年1月1日～2024年12月31日)

## 目次

1. 環境経営方針	2
2. 組織の概要等	3
3. 環境経営目標とその実績	4
4. 主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価	7
5. 環境関連法規への違反、起訴等の有無	8
6. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果	9

2025年3月24日

石川産業株式会社

# 1. 環境経営方針

## 石川産業株式会社 環境経営方針

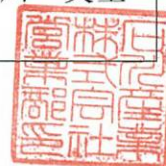
### (基本理念)

地球温暖化防止をはじめとした環境問題、脱炭素社会への取り組みを事業活動の最優先事項の一つとして位置付け、石川産業株式会社がこれまで培ってきた熱学・光学についての専門技術を最大限に活用し持続可能な社会の実現に貢献する製品の開発・製造をはじめ、あらゆる企業活動における環境負荷軽減に将来にわたり継続的に努力すると共に、SDGs への取組みを強化し、社会環境の保全と事業活動の両立を目指してまいります。

### (活動指針)

1. 適用される環境関連法規制等及び当社が同意する各種要求事項を遵守します。
2. 環境負荷軽減の具体的施策として下記の活動指針を定めます。
  - ① 製品における環境負荷化学物質の管理・把握を行います。
  - ② 主要な二酸化炭素の排出源である電力及びガソリンの使用量の削減に努めます。
  - ③ 廃棄物の分別を徹底し廃棄物の量を低減します。
  - ④ 水の使用量を維持し、更なる節約に努めます。
  - ⑤ グリーン購入を積極的に推進します。
3. 環境負荷軽減活動を確実にし、継続的に実施するために、全社員にこの環境方針の周知と環境教育を徹底し、関係取引先に対しても協力を要請してまいります。

令和七年三月二十四日制定  
石川産業株式会社  
代表取締役 石川 英生



## 2. 組織の概要等

### 1) 組織の概要

#### (1) 会社名及び代表者名

会社名：石川産業株式会社

代表者：石川英生

#### (2) 事業所所在地

本社 東京都三鷹市新川 4 丁目 6-10

テクニカルセンター 茨城県つくば市松代 4 丁目 5-31

#### (3) 環境管理責任者・担当者連絡先

環境管理責任者 石川英生

担当者 竹内央

連絡先 電話 0422-44-5501 FAX 0422-49-3831

E-mail [info@ishikawa-sangyo.co.jp](mailto:info@ishikawa-sangyo.co.jp)

#### (4) 法人設立年月日

1967 年 4 月 21 日

#### (5) 資本金

1000 万円

#### (6) 売上高

28,850 万円 (2024 年度)

#### (7) エコアクション 21 環境活動組織図

別紙 1 の通り (P10)

#### (8) 事業活動の概要

本社： 気象計測器の製造・販売

温度センサーの製造・販売

電気炉及び電気炉装置の製造・販売

テクニカルセンター： 電気炉及び電気炉装置の製造・販売、気象計測器の製造

#### (9) 事業の規模・施設などの状況

①従業員数：12 名 (内本社事業所 10 名,つくば事業所 2 名)

②本社敷地面積 : 本館・148.74m<sup>2</sup>

テクニカルセンター敷地面積 : 108.08 m<sup>2</sup>

③車両 営業車：普通乗用車・3 台 (内本社事業所 2 台, テクニカルセンター1 台)

### 2) 対象範囲

認証・登録範囲：本社及びテクニカルセンター

### 3. 環境経営目標とその実績

環境目標	2022年度実績 (CO <sub>2</sub> 発生量)	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
------	-----------------------------------	--------	--------	--------	--------	--------

#### 1.CO<sub>2</sub>削減 (22年度実績を基準とする)

温室効果ガス 排出量	電力 使用量 削減	【基準値】 21,743kWh (9,891kg-co2)	1%削減 【目標値】 21,525kWh (9,792kg-co2)	2%削減 【目標値】 21,309kWh (9,694kg-co2)	3%削減 【目標値】 21,095kWh (9,597kg-co2)	4%削減 【目標値】 20,884kWh (9,501kg-co2)	5%削減 【目標値】 20,675kWh (9,405kg-co2)
		【実績】 20,604kWh 評価：○ 目標対比:4.2%減少 前年度比:5.2%減少	【実績】 19446kWh 評価：○ 目標対比:6.0%減少 前年度比:9.6%減少	【実績】 kWh 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kWh 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kWh 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kWh 評価： 目標対比:% 前年度比:%
	燃料 使用量 削減	【基準値】 1,944t (4,772kg-co2)	1%削減 【目標値】 1,924t (4,724kg-co2)	2%削減 【目標値】 1,904t (4,676kg-co2)	3%削減 【目標値】 1,884t (4,629kg-co2)	4%削減 【目標値】 1,865t (4,582kg-co2)	5%削減 【目標値】 1,846t (4,536kg-co2)
【実績】 1,940t 評価：○ 目標対比:0.8%増加 前年度比:0.2%減少		【実績】 2076t 評価：× 目標対比:6.6%増加 前年度比:8.3%増加	【実績】 t 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 t 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 t 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 t 評価： 目標対比:% 前年度比:%	
二酸化炭素 排出量	【基準値】 14,663kg-CO <sub>2</sub>	【実績】 14,155 kg-CO <sub>2</sub>	【実績】 12,973 kg-CO <sub>2</sub>	【実績】 kg-CO <sub>2</sub>	【実績】 kg-CO <sub>2</sub>	【実績】 kg-CO <sub>2</sub>	

#### 2. 廃棄物排出量削減 (22年度実績を基準とする)

廃棄物 処分 分量	廃棄物 最終 処分量 削減	【基準値】 542.4kg	1%削減 【目標値】 536.0kg	2%削減 【目標値】 530.6kg	3%削減 【目標値】 525.3kg	4%削減 【目標値】 520.0kg	5%削減 【目標値】 514.8kg
		【実績】 520.6kg 評価：○ 目標対比:2.8%減少 前年度比:4.0減少	【実績】 526.5kg 評価：× 目標対比:0.8%減少 前年度比:1.1%増加	【実績】 kg 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kg 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kg 評価： 目標対比:% 前年度比:%	【実績】 kg 評価： 目標対比:% 前年度比:%

#### 3. 水の使用量削減

水の使用量 (m <sup>3</sup> )						
----------------------------	--	--	--	--	--	--

#### 4. 化学物質の把握

物質 含有調査の 実施	主な製品の RoHS 対応検査	主な製品の RoHS 対応検査	主な製品の RoHS 対応検査	主な製品の RoHS 対応検査	主な製品の RoHS 対応検査	主な製品の RoHS 対応検査
-------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------	--------------------

#### 5. グリーン購入

グリーン購入 の推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進	グリーン購入の 推進
---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

#### 6. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

製品に関する 環境配慮	製品の環境配慮 の実施	製品の環境配慮 の実施	製品の環境配慮 の実施	製品の環境配慮 の実施	製品の環境配慮 の実施	製品の環境配慮 の実施
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------

注) \* 排出係数は、2023年度東京電力エネルギーパートナー(株)の調整後排出係数:0.408 (kg-CO<sub>2</sub>/kWh)

\* 水の使用量は、本社・テクニカルセンターにおいて測定不可のため集計できず

#### 中期計画目標値

2022年度実績を基準とし、本年度の実績を踏まえ、来年度からの目標値を考察する。

## 【評価】

### ○ 電力使用量削減 (図 1)

中期計画における目標値比及び前年度比ともに減少している。

電力使用量減少に繋がっている理由を分析した結果、以下の点が要因として考えられる。

#### 【削減要因】

2024年度は生産の際に大電力を必要としない温度センサー関連の売り上げが増加し、電力使用量の多い電気炉の生産が、輸入材料の入荷遅れにより減少していることが、電力消費量を抑制し、減少させた大きな要因と考えられる。

#### 【評価】

全社的な売上高、生産高がコロナ禍前と比べて増加しているなかで目標値・前年実績を下回ったことは、継続的に環境活動がなされている評価対象となる。

今後は、入荷が遅れていた電気炉材料の調達先からの出荷が正常化し始め、これに伴い2025年度には段階的に電気炉生産量が回復することが見込まれ、同時に電力使用量が増加すると予想されるため、さらに効率的な電力使用量削減への施策が必要である。

※ 引き続き、データの採取とチェックを実施し電気使用量の削減を推進していく。

### ○ 燃料（ガソリン）使用量削減 (図 2)

中期計画における目標対比、前年度比共に増加した。燃料使用量増加要因は、以下と結論づける。

#### 【増加要因】

コロナ禍が落ち着いてきた中で、それまで主流であったリモート会議の機会が減り対面による打合せが増え、同時に売上増に伴う温度センサー、電気炉関連の商談の増加、納期遅れに対する面談による状況説明のため、社用車使用の機会が増え、前年度に比べ7%増の要因となっていると考えられる。

#### 【評価】

年度を通し、7%の増加となっている。コロナ禍において、打合せ、講習会のリモート開催が主流だったが、対面での打合せ、セミナーが増えてきており、これに伴い、燃料使用量が増加していることは、事業活動の増加によりやむを得ないことではあるが、改善の余地は残されている。

※ コロナ禍後、着実に収益状況が改善され、今後、新規事業開発への挑戦が計画されていることから更に燃料使用量が増加することが予想されるため、積極的な公共交通機関の利用による今後の環境活動強化が必要である。引き続き、データの採取とチェックを実施し燃料使用量の削減を推進していく。

### ○ 廃棄物排出量削減 (図 3)

中期計画における目標対比の削減は達成したが、前年度対比では1.1%増加した。

廃棄物削減要因は、以下と結論づける。

#### 【削減要因】

2024年度は売上・生産高が大きく増加したにも関わらず、2023年度終わりから米国からの輸入材料の入荷が減少傾向にあった為、前年度比で若干の増加に留まっている。特に、梱包材の排出量が減り、2023年度とほぼ横ばいの結果となった。

#### 【評価】

2023年度に比べ売上高、生産量が増加傾向にあるにもかかわらず、廃棄物排出量の削減が、ほぼ変わらずできていることは、大いに評価できる。(若干の増加)一方、電気炉生産高の回復に伴う廃棄物排出増が予想されるため、更なる廃棄物のリサイクル率の向上、新たなリサイクル方法も模索、実行する必要がある。

※ 引き続き、データの採取とチェックを実施し廃棄物の排出量削減を推進していく。

### ○ 水の使用量

節水のラベル等により、節水の啓蒙活動を実施

## ○ 化学物質含有調査

現在、調達先の部材メーカーにおいてRoHS 10物質対応はほぼ100%遵守できている一方、顧客からのREACH規則、PFAS等の化学物質規制への対応要求が年々更に厳しくなっている。一部部材メーカーからはこれらの化学物質規制への適合宣言書や規制物質の不含有証明書入手できていない調達品があり、今後、すべての調達品において、きめ細かい情報収集に努めることが求められている。適時適切な管理基準の見直しを強化し、調達先との連携を深め、加えて、社内検査品質の向上、検査工程の効率化を強力に推進していくことを目標とする。

## ○ グリーン購入

昨年来のグリーン購入適合事務用品等の購入を継続して運用できた。

## ○ 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮

昨今、化学物質規制が今まで以上に強く求められつつある。いままでの活動から得た規制物質の拡散防止のノウハウを基に、生産品、調達品等、取り扱い製品全ての設計・流通・生産において、含有規制化学物質の把握の方法を更に強化し、持続可能な体制作りを構築し、エネルギーの更なる効率化・低減を図り、環境に配慮した製品・顧客満足できるサービスの提供を図っていく。

## ○ 環境活動の実施

本年度は、売上高（＝生産量）においてもコロナ禍以前の水準を大幅に超えております。今後は、更なる増産に備えて、継続可能な事業環境目標を構築するとともに、エコアクション活動の新たな試みにも挑戦し、環境社会の実現により一層貢献することができる取り組みを進めていきたい。

図1 電気使用量の推移

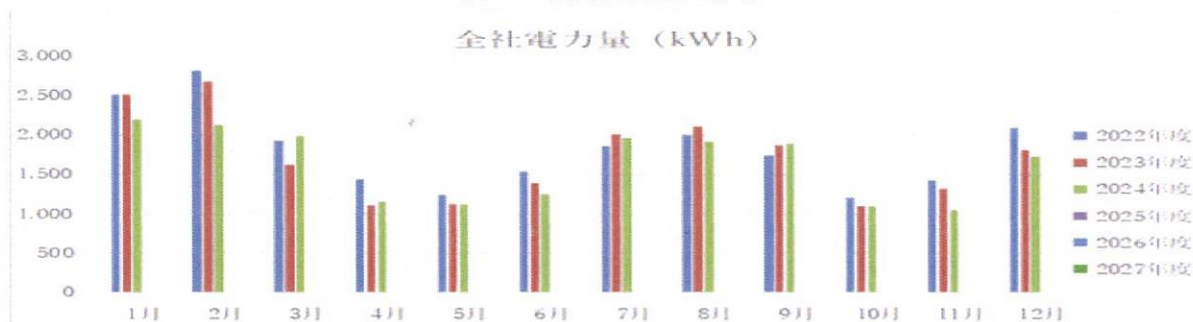


図2 燃料使用量の推移

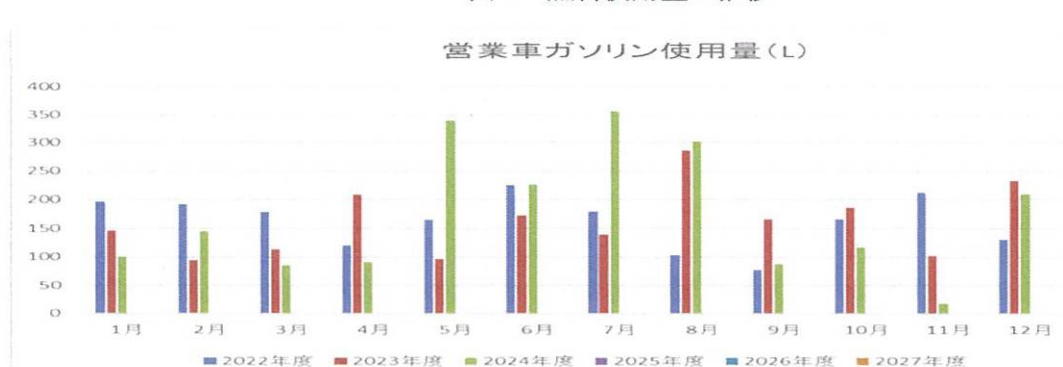
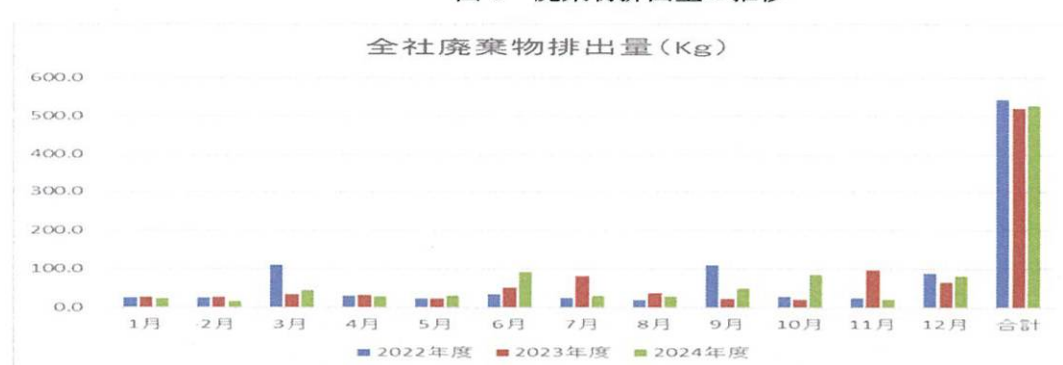


図3 廃棄物排出量の推移



## 4. 主要な環境経営計画の内容と取組結果の評価

環境目標	取組項目	評価	
1. CO <sub>2</sub> 削減			
電力使用量削減	不要照明の消灯	○	作業者がいない場所の消灯を今後とも実施する。電源 SW に節電促す表示した。(節電意識の改善)
	機器の不使用时電源オフ	○	機器不使用时に積極的な電源オフをする。(省電力モード、声掛け等)
	エアコンの温度管理	○	適切な温度管理とこまめな運転切り替えを今後とも積極的に実施する。(温度管理基準の明確化)
燃料使用量の削減	車両の点検整備の徹底	○	今後とも定期的な点検を実施する。
	車両の走行距離の低減	○	効果がみられる。今後も継続実施する。
	エコドライブの徹底	○	運転の際には今後ともエコドライブを心がける。
2. 廃棄物排出量削減			
廃棄物排出量把握	廃棄物分別の徹底	○	三鷹市のごみの排出方法をこれからも遵守する。
	廃コピー用紙の再利用	○	廃コピー用紙を積極的に再利用する。
	廃段ボールの再利用	○	更なる廃ダンボールの再利用を今後とも行う。
	廃梱包材の再利用	○	今後とも廃梱包材を積極的に再利用する。
	無駄の出ない梱包の促進	×	部材納入業者に協力要請。
3. 水の使用量削減			
水の使用量削減	節水ラベルにより周知	○	今後とも啓蒙活動の維持継続する。
4. 化学物質の把握			
化学物質含有調査	主な製品の RoHS2 対応検査	○	これまでの手順をより詳細にして検査を行う。情報収集の徹底する。(ROHS10 物質対応)
	REACH 規制への対応	○	情報収集の徹底する。
5. グリーン購入			
グリーン購入の推進	グリーン購入適合商品の購入推進	○	新規購入品についてもグリーン購入を推進する。
6. 自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関する環境配慮			
製品に関する環境配慮	出荷製品の化学分析や仕入れ先からの品質情報の入手	○	製品の環境配慮を今後とも行う。

### 【次年度の取組】

- ・2024年度は、売上高(=生産量)においてもコロナ禍以前の水準を大きく超えております。次年度後半より生産量が更に増産との予測もあるので、増産時には、新たな事業活動が確実に求められることとなる。全体的な活動内容を再構築することが必須となり、経済的な活動、環境活動共に新たなる業務形態を模索していく。
- ・次年度生産量増加に伴い、米国より材料入荷も増加し廃梱包材も増加することが、予測されるのでリサイクル及び再利用の方法も強化が必要となる。
- ・引き続き、情報収集を積極的に実施し、社内全体のスキルアップを図ると共に最新の情報を常に入手し、維持継続できるエコアクション活動を実施する。

## 5. 環境関連法規への違反、起訴等の有無

環境関連法規への違反・起訴はありません。尚関係当局より違反などの指摘は過去3年間ありません。

法規制等の名称	該当する要求項目	遵守基準等	遵守評価
三鷹市廃棄物処理及び再利用の促進に関する条例	事業者の廃棄物減量義務	事業者の事業活動及び製造活動における廃棄物削減努力	2024.12.23 判定:良 竹内
	事業者の廃棄規則の遵守	事業系ごみの排出基準の遵守 事業系有料ゴミ袋の使用	2024.12.23 判定:良 竹内
廃棄物処理法	事業者の責務	事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処置しなければならない	2024.12.23 判定:良 竹内
都民の健康と安全にを確保する環境に関する条例	アイドリング・ストップ義務	自動車等を駐車又は、停車する時はアイドリング・ストップしなければならない	2024.12.23 判定:良 竹内
特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令	特定 10 物質の閾値以上使用した製品の EU 内での販売禁止	特定 10 物質の閾値以上使用禁止	2024.12.23 判定:良 竹内
高圧ガス保安法・容器保安規則を遵守	高圧ガスを充填するための容器であって地盤面に対して移動する事ができる(ボンベ)	一般継目なし容器については5年に一度耐圧試験が必要	2024.12.23 判定:良 竹内
都民の健康と安全にを確保する環境に関する条例	条例で定める工場は認可を受けなければならない	定格出力が合計 2.2kw以上の原動機を常時使用する工場は認可が必要	2024.12.23 判定:良 石川英生
電離放射線障害防止規則	X線装置の届出、管理区域の設定及び管理	実効線量が、3ヶ月に1.3mSvを超える恐れのある区域を管理区域として届ける必要がある	2024.12.23 判定:良 石川英生
グリーン購入法	できる限り環境物品を選択するように努める。	環境配慮物品の購入	2024.12.23 判定:良 竹内
つくば市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例	事業者の廃棄物減量義務	事業者の事業活動及び製造活動における廃棄物削減努力	2024.12.23 判定:良 竹内
	事業者の廃棄規則の遵守	事業系ごみの排出基準の遵守	2024.12.23 判定:良 竹内
フロン排出抑制法	簡易点検と定期点検による業務用空調機器管理	簡易点検：すべての業務用冷凍空調機器	2024.12.23 判定:良 竹内

\* 法令チェックは毎年 12 月に実施予定。

## 6. 代表者による全体評価と見直し・指示の結果

2024年度は売上、生産高が大幅に増加したにもかかわらず、その伸び以内に各指標の増加率が収まっていること、電力量においては、減少していることは環境活動が社員一人一人の習慣として完全に根付いていることを表していると考えます。

今後、売上、生産量の増加や新規事業の開発とそれらへの新規参入により、各指標における削減目標の達成は現実的ではなく、事業実態とかけ離れた無理・無駄を引き起こしかねないと危惧する。

環境経営指標における目標値を、今後、売上高・生産高の増減に合わせた単位当たりの使用量を算定し、事業内容の実態に則した削減・増加率の把握に努めるべきと考えます。

事業環境として、足元では半導体市況が停滞しているものの、長期的には確実な成長が見込まれ、昨年来、行ってきた部材調達が多様化、分散化が形になってきている。また、これまで販売が難しいと考えてきた医療分野への足掛かりの目処が立ったことから、更に環境に配慮した新製品、新事業の展開を積極的に進める。

要求が高まるであろうとみられていた脱炭素経営について、その関心が社会的に落ち着いてきた感があるが、当社としては、各取引先連携した環境負荷低減への取り組みを今後も積極的に推進し、次世代に受け継いで行ける地球環境の保全を目指していく。このため、自社内のみにとどまらず、取引先様との活発なコミュニケーションに努めることを指示する。

経済環境としては、米中対立、関税問題により先を見通すことが難しい状況であり、これまで以上にリスク対応が重要になるに局面と考え、社員が問題点や改善策を提起しやすい社内環境を整えたい。

緊急時対応としてのBCPについて、高い確率で予想されている自然災害への対応も専門家と共に策定に着手する。

以上／

エコアクション21 環境活動組織図  
環境活動における組織図は下記の通りとする。

代表取締役  
石川 英生

- ・環境方針の作成
- ・EA21全体の統括、方針決定、方針指導・指示
- ・経営上の課題とチャンスの明確化

